

# 日本書道史

## 第9講 「光悦の人と作品」

住川 英明 (岐阜女子大学)

# 第9講 「光悦の人と作品」

## 【学習到達目標】

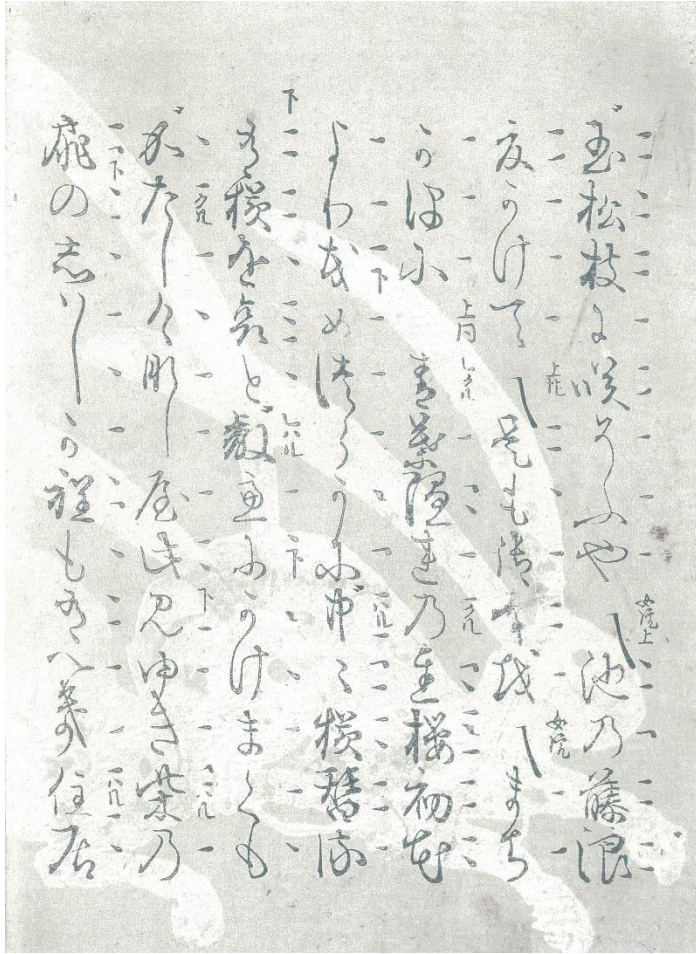
- 本阿弥光悦の書作品，工房における制作という作品制作のあり方等について，概括的に説明することができる。
- 近衛信尹の大字書など，書に様々な装飾的な工夫が施されたことを作品例にもとづいて説明することができる。

# 第9講 「光悦の人と作品」

## 1. 町衆の文化と「嵯峨本」

- 市民は「町衆」と呼ばれ、かつ生活の豊かな上層階級の町衆は「上層町衆」と呼ばれて、新たな文化の担い手となった。
- 本阿弥光悦の仕事は、書・茶陶・蒔絵などの多方面に及んだ。彼の周辺には多くの職人や商人、貴族や武士がおり、そのネットワークを活用して、多様な業績を残した。その代表的な例が「嵯峨本」の出版である。

# 第9講 「光悦の人と作品」



## 《嵯峨本》（部分）

- 慶長・元和年間に、角倉素庵（1571－1632）や本阿弥光悦が制作・出版した書籍の総称.
- 「角倉本」「光悦本」ともいわれる.
- 大胆な図案の料紙に連綿体活字などを用いて印刷された.

# 第9講 「光悦の人と作品」

## 2. 本阿弥光悦の作品とその新しさ

- 光悦はこうした長い巻物に、平安時代の古筆を基にし  
ながら、斬新な発想によって、書画一体の美を目指し  
た豊潤闊達な書風を生み出している（古谷稔）。
- 行頭は不規則に変化しているが、行間はほぼ揃い、行  
も傾けず、むしろ単調な書きぶりであるといえる。
- 下絵を単なる背景と考えずに、互いを引き立て合うも  
のという距離感で臨んでいるところに新しさがある。

# 第9講 「光悦の人と作品」



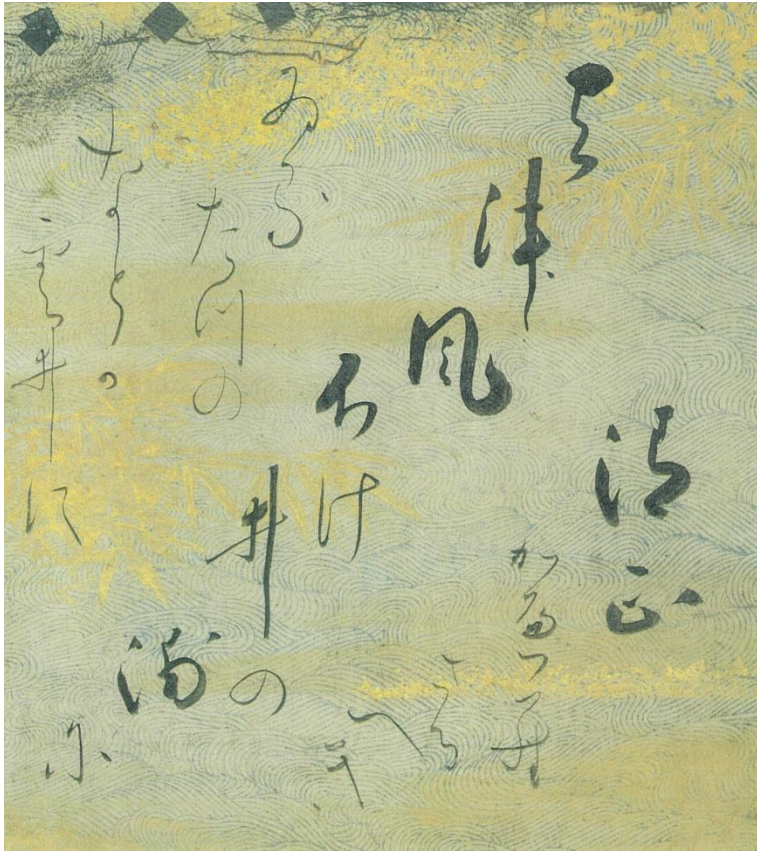
本阿弥光悦 《鶴図下絵和歌巻》 (部分)

# 第9講 「光悦の人と作品」

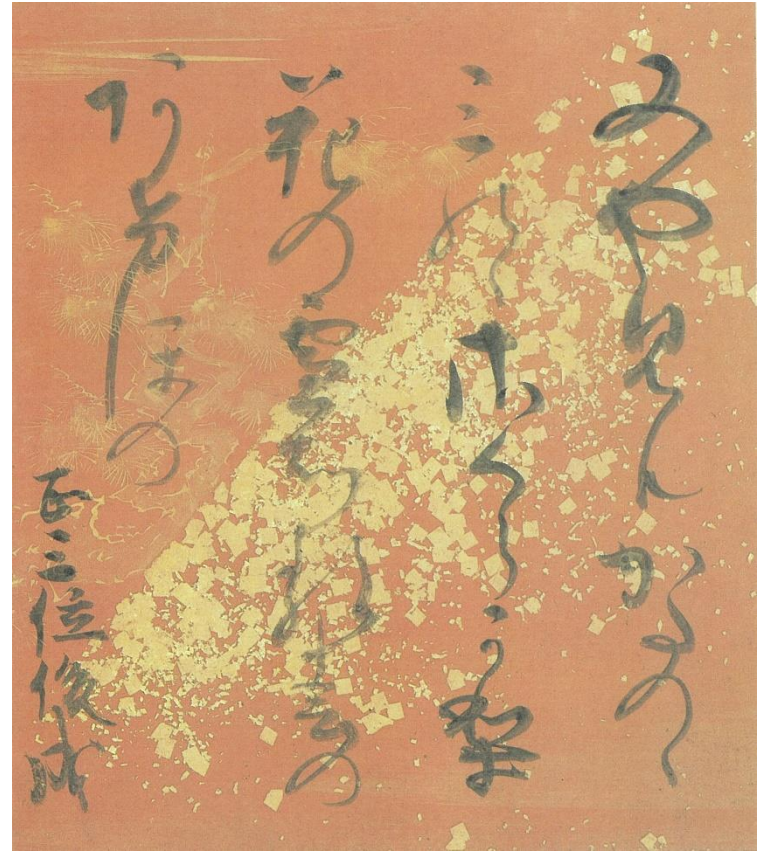
## 3. 大字仮名と「寛永の三筆」

- 光悦と同時に、能筆を称えられた人々に、近衛信尹・松花堂昭乗・烏丸光広らがいる。光悦・信尹・昭乗の3人は「寛永の三筆」と呼ばれている。
- 信尹の書は、大らかでのびやかな筆致で際立っている。大きな紙面に仮名書で大書した、今日でいう「大字仮名」のさきがけとなる作品群を遺している。
- 昭乗の書は、上代様をよく学んでおり、端正優美で品致がある。後には空海に私淑して大師流を修めた。

# 第9講 「光悦の人と作品」



松花堂昭乗 《色紙》

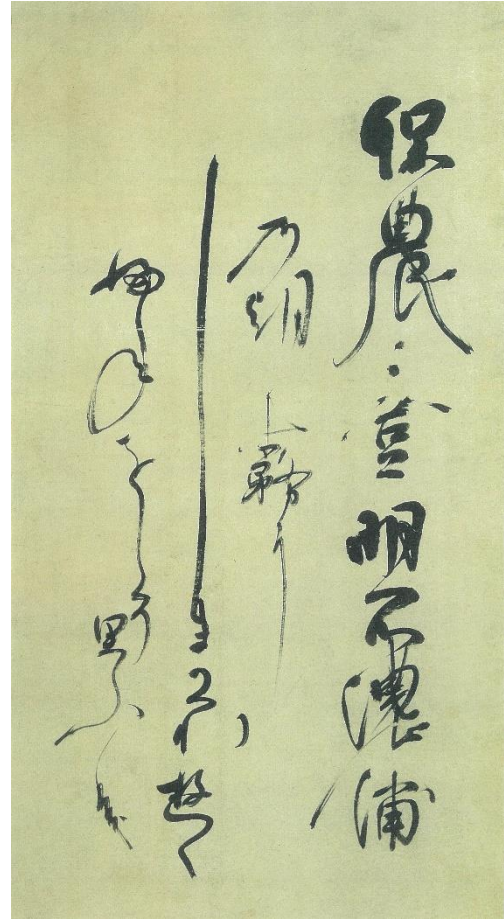


近衛信尹 《色紙》

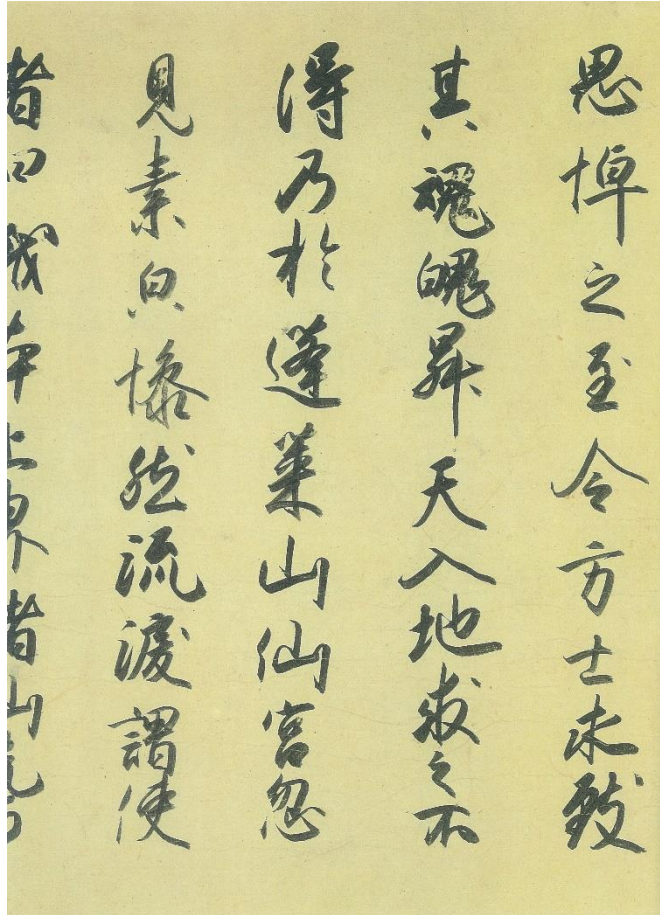


# 第9講 「光悦の人と作品」

近衛信尹 《和歌屏風》 (部分)



松花堂昭乗 《長恨歌》 (部分)



# 課題

1. 文化の中心的な担い手が町衆へ移行したことによる、書の特質の変化について、説明しなさい。

# 第9講 「光悦の人と作品」

## 【学習到達目標】

- 本阿弥光悦の書作品，工房における制作という作品制作のあり方等について，概括的に説明することができる。
- 近衛信尹の大字書など，書に様々な装飾的な工夫が施されたことを作品例にもとづいて説明することができる。

# 日本書道史

## 第9講 「光悦の人と作品」

住川 英明 (岐阜女子大学)